

# ▲ 支部探訪―北見

支部長 我妻 英信

## 七人のサムライ

元々会員が少ないのに、今年も会員が減ってしまいました。やめる理由はいろいろあるのでしょうか？と聞くのですが、とにかく新人が入ってきません、ついに七人のサムライならず七人の寒頼になつてしまい、寒い中身を寄せあつていきます。

会費は年二万円、例会は月一回写真を持ち寄つて行い、作品展も年一回行つていきます。七人の年齢が高いため入りにくいのか？

支部例会風景



「やさしいいさんばかりですよ？」  
とにかく北見支部は会員をふやすべく、各自頑張つております。

設立年月日は、何度か休部しているらしく、はつきりわかりませんが、今の会は三十年以上続いておりますが、当時の会長は高齢のため入院中で聞くことが出来ません。

支部写真展



## ■大崎和男 「器用貧乏展」を観て

余市支部 平形秀哉

新得町公民館ふれあいホールにて開催された。内容深い個展であつたので、多くの写真協会員に知っていただきたくて筆をとりました。

新得駅から徒歩十分の公民館で開かれていた入口に立つとすぐに百二十号の油彩が迎えてくれる。本会場までの廊下は、氏の所属する絵画の道展出品作品自由美術協会展への出品作が左右の壁に飾られ導かれる。色彩豊かな大作ばかり普段は、町の行事や結婚式、講演会等に使用される大ホールは、大崎ワールドの作品でうめつくされている。絵画五十点写真四十点陶芸三十点造形(鉄)二十点詩七節俳句五十句コラム二十編だ。写真は、今回の個展に撮り下ろしたの作品タイトルは「穴」ホール、トンネル工事現場に入り込んでの意欲的な作品である。熱気と危険の背中あわせの中での人間の挑戦ドラマを火花と水しぶきが輝く瞬間は冴え美しい。俳句もユーモア溢れるものでのびやかに自由に咏んでおりほつとさせられる。氏のあたたかい人間性を感じられる。道新やタイムスに掲載されたコラムは時代を風刺したり提言の含蓄ある文章である。詩、現役時代はJRの機関士であつた時のリアルな体験を綴っている。遭遇した悲しい事故や運転業務中のトイレで困つた緊迫した描写は胸を打つ。陶芸、造形(鉄)は氏の魂の叫びである。自由な型の面白さは音楽を奏でている様である。鉄クズで造られたオブジェ

は生命を吹き込まれ生きいきと語りかけて来る。写真を楽しむ私たちは、とかく写真という範ちゅうの内でも終わつてしまいがちですが大崎さんはあらゆるアートを身にとり入れて写真表現に幅を深めているのに感銘を受けました。今回の個展は「器用貧乏」展と銘打っておりませんが「器用豊穰」展でありました。常に新しい創造性をもとめて、若々しい感性で作品を発表し続けるお姿には大いに元気づけられます。スケールの大きな真の写真人、大崎さんこれからも御健康で増々の御教示と御活躍に期待を申し上げます。個展の礼状にこんな二句が添えられておりましたのでご披露させていただきます。

和男

## 事務局から

### ・平形秀哉氏に感謝状

平成九年から一九年まで余市支部の支部長を勤め、現在支部顧問の平形氏にこのご貢献を謝して、感謝状が授与されました。

### ・作品集の値下げ

会員の皆さんの要望が強かつた作品集の値下げを検討し、本年度は頒布価格を冊三〇〇〇円とするにしました。しかし、従来の販売数では諸経費を捻出することは極めて難しい事情にあります。これを機会に、会員の皆さんの力強いご協力をお願いします。